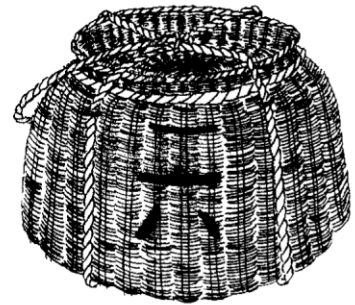


ぎよ ぐ ぎよ ほう 漁具と漁法⑥

い えさとり どう ぐ —活かし・餌取道具—

●タンポ

魚を入れておくカゴ。海中に沈めておいたり、運搬するのに使用した。竹で編んであり、上部に出し入れのための蓋が付いている。使用目的によって、大小さまざまな大きさのものがあ、釣人が使う小さなものから、直径が1.5mくらいの大きなものまである。びく、どうまん、ロツペ、ともいった。



●魚かご……活かし用で、釣った魚を入れた。漁師の自作品。

●活かし網…ボラなどを入れた網。

●ジャ虫掘り

釣りの餌となるジャ虫（ゴカイの仲間）で体長が60cm程にもなる）をとるのに使用したもの。干潟に入り備中鍬を使って深く掘り起こし、ジャ虫を捕まえた。逃げ足が速いので、作業はすばやく行う。ジャ虫は、細かく切って釣餌にした。また、タイ釣りの餌として重宝されているユムシなども、この道具で掘った。

細長いシャベル状のものは、蓑虫（スゴカイ）やゴカイなどを掘ったものであり、蓑虫掘り、イチョセ掘り、とも呼んだ。

餌取りを専門にする人もいて、とれた餌虫は、釣餌を扱う店に持っていったり、ながの（延縄）の餌として売った。

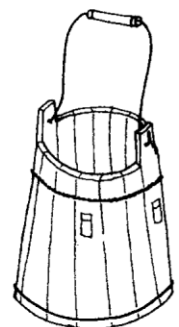


蓑虫

ユムシ

●餌桶

サワラの木でつくった桶。安定がよいように底を広くしてある。ズイ（クロダイ）釣りの時に使用したもので、海水を入れ、ジャ虫を活かして持ち運んだ。



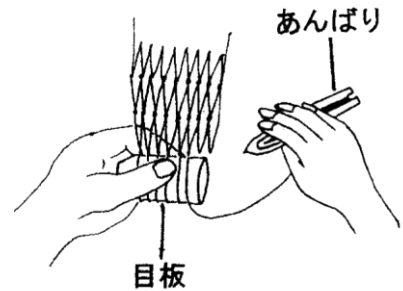
ぎよ ぐ ぎよ ほう 漁具と漁法⑦

ぎよ ぐ せい ぞう ほしゅう — 漁具の製造と補修 —

漁師は、漁に必要な道具を自らの手で作り出してきた。釣針や仕掛けなどの漁具には、漁師の経験や工夫が反映され、製造や加工に必要な道具も自家製であった。魚網も機械製造のものが出回る以前は、麻糸や綿糸を使った手製で、アンバリや目板で編んだ。漁後には、海水でよく洗って干した後、やぶれた個所を補修して次の漁に備えた。また、防腐のために、時々染め直して長く使えるようにした。

● あんばり

網の製作や補修に使う竹製の編針。網目によって大小がある。海苔あんばりは、海苔網に用いた。



● 目板

網の目の大きさを決め、かつ網目を堅く結びつけるのに用いた。刻まれた数字は網目を示している。

● 網袋……はたずね（機織りで生じる織り残った糸）で編んであり、網の補修用の材料入れにした。

● とおし……や（重りが付いた網）を網に取り付けるときなどに使用した。

● 網の染料……カワチ（柏類の樹皮）やカチ（マングローブの樹皮から作ったもの）のほか、柿渋を使って魚網を染め、防腐効果を高めた。

● 手槌……糸に柿渋をひくのに用いた。

● テグス……蚕から取り出して精製した糸状のものを、つなぎ合わせて釣糸にしたもの。テグスとおしに通して磨き、太さを揃えた。

● トクサ……木賊を乾燥させて、テグスや釣針を磨いた。

● くわえ……釣針作りに使用したもので、先端に真鍮線を挟み、やすりで磨いた。



● 玉型・鑄込型・平玉用型

鉛を溶かし込んで、重りをつくった。

● 帆縫針……帆を繕ったり、帆にレーキ（綱）を取り付けるのに使用し、針当とともに用いた。通りをよくするため、針の先が三角になっている。雨などで糸が腐らないよう、糸を油脂になじませてから縫った。